

三重の木を使おう、  
森を育てるために



木をよく  
知ろう

木と  
もっと  
親しまう

木を使おう

# 三重の林業



森林ボランティア活動でのかかり木の処理（多度町）

## 目次

2011年9月  
No. 364



INTERNATIONAL YEAR  
OF FORESTS 2011

森を歩く。  
2011年は、  
国際森林年。

話題を追って	亀山市・川崎愛児園が完成するまで	2
話題を追って	カーボン・オフセット植樹事業を開始	3
話題を追って	民民連携による森林共同施業団地づくり	4
話題を追って	地域産材にこだわった、リフォームと家具づくり	5
話題を追って	300年の歴史を持つ尾鷲林業をまもるために	6
話題を追って	井田小学校児童がクロマツ苗を養成	7
話題を追って	山崎さんがJA全農乾椎茸品評会で大臣賞を受賞	8
話題を追って	「国際森林年」記念行事を開催します	8
話題を追って	第45回森林防疫奨励賞の林野庁長官賞を受賞	9
団体情報提供	間伐材利用の可能性を広げるO&Dウッド	10
連 載	頑張ってます！	11
連 載	この人に聞く ～第35回・安田 勇さん～	12
技 術 情 報	カシナガ被害の実態とその対策方法	14
お 知 ら せ	三重県林業技術普及協会通常総会を終えて	16
木 材 市 況	県内木材市場市況の概況（8月）	18
行 事 予 定	森林・林業関係行事予定表	18

## 亀山市・川崎愛児園が完成するまで

～子供たちに木の香りを届けたい～

Y's建築設計事務所 豊田 由紀美

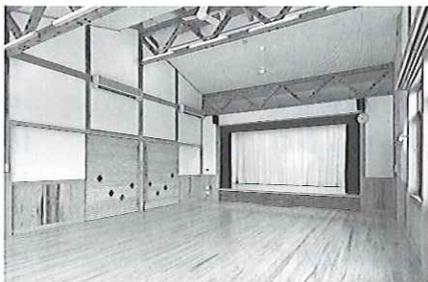
川崎愛児園が現在使用している園舎は、明治時代に建てられた古い木造建築です。耐震の問題など構造的な不安に加え、定員増に対応するには手狭なことから建替ることになったのですが、縁あって私が設計を担当させていただくことになりました。

保育園からの希望は「木造」で、子供たちが出来るだけエアコンなどに頼らなくても自然な環境の中で、元気で過ごせる空間にしてほしいということでした。



近年、木造の良さが見直され、森林対策もあってか、木造の保育園や学校も増えています。しかし、様々な理由から、木造であっても構造材には集成材を使用することが多いようです。そこで、私が県産材の利用推進協議会の委員をさせていただいていることありますが、今回は、柱には桧、横架材には杉とどちらも県産材を使用し、昔ながらのえつり荒壁の上に漆喰仕上げ、そして、この地方の伝統工法を取り入れた建物にしようと考えました。

補助金事業の場合、実際の工期が短いこともあって、乾燥期間が長くかかるえつり荒壁を採用するには無理があるのではないかと、入札によって施工業者が決定してからでは300坪もの構造材を準備できるのだろうかとの不安はありましたが、行政と施主の理解と後押しがあって実施設計に移りました。構造計算を東京の山辺構造設計事務所に依頼し、大スパンの居室の梁はトラスを採用しました。



トラス構造の採用により大スパンを実現

消防法では、準耐火建築物にすれば屋内消火栓が不要となりますが、準耐火建築物にすることで、せ

つかくの真壁の良さが半減してしまうことから、あえて設備を設置する方を選択しました。床材には圧密加工の桧板、腰壁や天井にもできるだけ杉の小幅板を張りました。保育園は幼稚園と違い内装制限がかかりますが、現在は準不燃加工を施した板材や難燃材の合板もありますので、割高ではありますが採用しました。

実際、開発申請許可の遅れが原因で、一般競争入札によって施工業者が決定したのは昨年9月。上棟は年内に行いたかったのですが、材木の調達に間に合わず、結局、職員室棟と保育室棟すべての建て方が終わったのは2月でした。それから、竹を縄で組んで土壁を塗ります。塗れた壁から、連日連夜、ジェットヒーターで乾燥をさせてから大直し。追って大工が造作に入りました。工期は6月末でしたので、毎日、相当数の職人が現場で働いており、順調に進んでいた矢先にあの東日本大震災が起きました。仕上材のほとんどが自然素材なので大丈夫だろうと思っていましたが、床の下地に張る構造用合板が一枚も手に入らなくなった時には焦りました。他にも設備機器などの入手が困難になったことから、行政と相談をして工期を8月まで伸ばしていただきました。

いろいろな苦労があった現場ですが、ようやく完成検査にこぎつて、園児の皆さんたちに新しい園舎に移ってもらうことができそうです。この夏も連日猛暑が続きましたが、木と土で出来た園舎の中は外部よりずっと涼しく、風があれば十分自然室温で過ごせます。大工や左官など職人の技術が十分に生かされたこの園舎で子供たちに元気に走り回ってほしいと願っています。



### <施設概要>

構造・規模	木造2階建て	延床面積 913.27㎡
工期	平成22年10月～平成23年8月	
工事費	240,000千円(造成費込み)	
県産材使用量	124㎡(三重の木認証材)	
主な使用樹種	スギ・ヒノキ	

# 宮川森林組合がカーボン・オフセット植樹事業を開始しました ～富士通中部システムズとオフセット・クレジット売買契約を締結～

松阪市駐在 林業普及指導員 北川 雅 義

平成23年7月2日(土)、宮川森林組合（三重県多気郡大台町）と株式会社富士通中部システムズ（愛知県名古屋市中区）は、大台町の奥伊勢フォレストピアにおいて、J-V-E-R制度を活用したオフセット・クレジット（1,598t-CO<sub>2</sub>分）の売買契約を締結しました。



調印式の様子

宮川森林組合は、平成23年4月、森林組合としては全国で2番目となるJ-V-E-R認証を取得し、5月には5,287t-CO<sub>2</sub>分のクレジットの発行を受けました。

今後の発行見込を含めると合計10,625t-CO<sub>2</sub>分のクレジットが得られる予定であり、今回の契約はこのクレジットを対象とした初の契約となります。

宮川森林組合では、オフセット・クレジットを活用して伐採跡地への植樹を進める仕組みを作り、これを「カーボン・オフセット植樹事業」として展開し、更なる植樹協力企業を募っていく考えです。

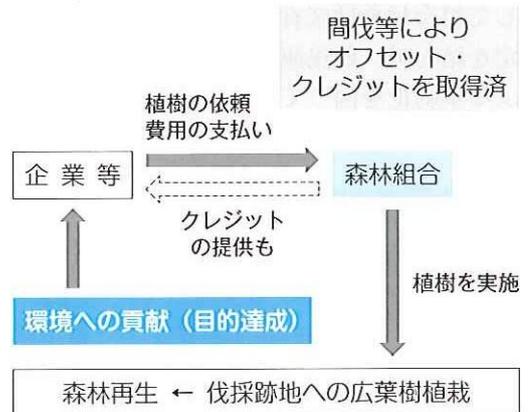
大台町では十数年前から広葉樹を中心とした植樹に取り組んできましたが、当時は実施例の少ない植樹方法であったことや、林業の低迷による森林への投資意欲の低下などから出資者が見つかりませんでした。

そのような状況下、富士通中部システムズが環境・社会貢献の一環として平成19年から大台町での植樹活動をスタートし、今年で5年目を迎えました。

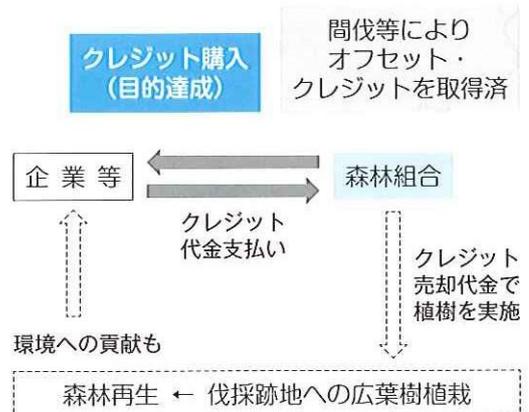
この間、継続して植樹費用を負担してきたことから、宮川森林組合が実施する「カーボン・オフセット植樹事業」の契約に至ったものです。

## 「カーボン・オフセット植樹事業」の概要

(1) 環境貢献のための植樹を主目的とする場合  
企業等が植樹費用を負担。その費用に応じたオフセット・クレジットを企業等に提供。



(2) オフセット・クレジット購入を主目的とする場合  
企業等がオフセット・クレジットを購入。組合はその売却益で植樹を実施。



## 宮川森林組合が行う植樹の特徴

- ① 森林立地評価に基づいた樹種の選定、植栽配置
- ② この地方で育てた地域性広葉樹苗木を使用
- ③ シカの食害対策にパッチディフェンスを採用

※宮川森林組合では、オフセット・クレジットで得た資金の5%を「大台町自然との共生基金」に寄付し、地域活性化や林業の担い手対策などに活用していくこととしています。

# 度会町一之瀬地域森林整備推進協定について

## ～民民連携による森林共同施業団地づくり～

(独)森林総合研究所森林農地整備センター 津水源林整備事務所 青山 功

### ◆はじめに

民民連携（民有林と国有林が森林整備推進協定を締結し施業の連携を図ること。）が島根県で始まってから5年が経過し、全国各地で数々と協定が結ばれる中、民有林においても県行造林、町有林、水源林そして組合林や地区有林、私有林が連携するための協定を結んで、民民連携と称して森林共同施業団地による集約化を図っていますので、ここに紹介します。

### ◆森林共同施業団地の位置と林況

度会町一之瀬地区は清流として名高い宮川の支流、一之瀬川の上流部に位置し、約4,600haの森林を有しており、戦後の昭和30年代までは薪炭林として利用されていたものが、燃料革命とともに拡大造林として植林され、現在は間伐を必要とする20～40年生の木が中心の森林を形成しています。



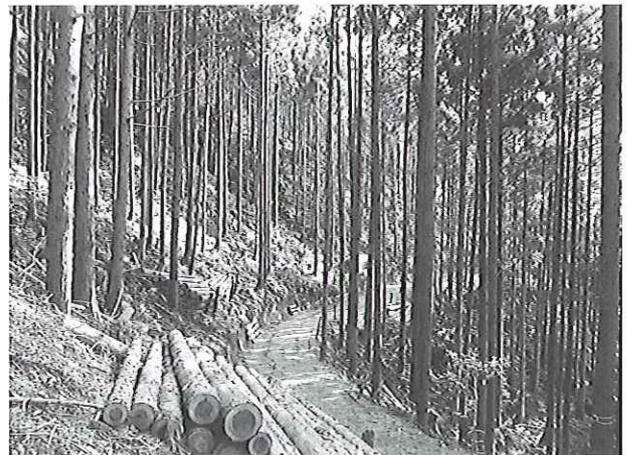
### ◆森林整備推進協定の締結と内容

三重県、度会町、一之瀬地域林業推進協議会、いせしま森林組合、(独)森林総合研究所の5者により平成22年2月9日に協定が締結され、「森林の整備に関する実行計画」に基づき森林共同施業団地として森林整備や路網整備を年次計画に沿って実施していくこととなっており、特に、路網整備の共同化や高性能林業機械導入による間伐材搬出の集約化を行い、事業コストの削減を図っています。



### ◆路網の開設

一之瀬地区の森林はほとんどが急傾斜な山容であり、特に源流部は南部簡易水道の水源地域であることから、路網整備については一段と配慮の必要があります。そのような中で森林農地整備センターが薦めている丸太組工法（のり留工）による「崩れにくい作業道」を取り入れた路網整備に、いせしま森林組合では積極的に取り組んでいます。また、最近では搬出間伐と併せた路網開設について、研修のため各地から多くの視察者が訪れています。



### ◆さいごに

条件の悪い奥地にある県行造林や町有林、水源林等が核となり周囲の私有林等と一体となることは、森林の公益的機能の拡大にも繋がることであり、森林農地整備センターとしては地域貢献の一環として民民連携を積極的に取り組んでいきます。

## 地域産材にこだわった、リフォームと家具づくり ～『山のめぐみ舎』神保さんの取り組み～

伊賀市駐在 林業普及指導員 北出 満

大都会横浜から山あいの集落（伊賀市腰山地区）に一家で移住し、伊賀の木材にこだわったリフォームや家具づくりを行っている、『山のめぐみ舎』神保さんをご紹介します。

### ◆横浜から移住

神保さんは、2009年4月に横浜から伊賀市腰山地区に移住してきました。

理由をお聞きしたところ、横浜で戸建住宅を買おうとしたときに、価格のわりに建物も土地も狭く、あまりにも家の質と値段にギャップがありすぎるといふ現実と直面し、「はたしてこんな人生でいいのだろうか？」と疑問に感じたそうです。そして、横浜に住むことをやめて、自分の実家の愛知と奥さんの実家の大阪の中間地点である伊賀周辺で物件を探したところ、ちょうど思い描いた日本家屋の物件があったため移り住むことになったそうです。

仕事は横浜では工務店の下請けとして大工をしてみえたそうで、伊賀に移住した後もそのようにしようと思っていたのですが、リーマンショックが起こったため仕事がなくなり、また新しい土地で知名度も信用もなかったため半年くらいは無職状態が続いたそうです。そのときは、家具を作ってなんとか生計を立てていたとのことでした。



山のめぐみ舎  
神保さん

### ◆「山のめぐみ舎」を設立

そのような中、2009年10月に「山のめぐみ舎」を設立し、リフォームや家具作りを本格的に開始されました。最初は信用ゼロからのスタートです。知名度を上げないと仕事が入らないため、チラシ発行、ブログ開設、イベント参加（家具の展示販売、マイ箸づくり、包丁研ぎ）、個展の開催など様々な努力をされたそうです。最初の頃はとにかく名前を知ってもらおうことが大変だった、とのことでした。

しかし、横浜時代には元請との付き合いだけだったのが、伊賀に来てからはお客さんと直接付き合いをすることができ、今はとてもやりがいがあるとのこと、「これまではお客さんの顔を見ずにやってきた。申し訳なく思う。」と話していました。

また、神保さんは、「リフォームにしても家具にしても、「安けりゃ何でもいい」と思っている人は少ないと思う。信頼できる人に安心して任せ、安全なリフォームをしてもらえることのほうがお客さんも望んでいると

思う。そして、できれば伊賀の木材にこだわり、使っていきたい。」と話していました。



### ◆これからの活動

これまでの活動で徐々に知名度も上がってきたようで、山のめぐみ舎へのリフォームの注文や家具の販売も徐々に増えてきているそうです。神保さんは、これからも地元の木材、特に、柔らかくて温かみがあるスギ（周囲を見渡しても圧倒的にスギの植林地！）にこだわって、リフォーム、家具、小物づくりを行っていきたく考えているようです。

それから、新たな取り組みとして、空き家バンク、移住希望者へのアドバイス、リフォームの相談、仕事のアドバイスなどをしつつ、都会に住んでいる人を田舎に呼び込ませるような活動をしていきたいと考えてみえます。そのような活動をしていくことで、「将来的に地域の林業・木材産業に元気を取り戻して欲しいし、地域を活性化したい。地元が元気になることを望んでいる。」と話していました。



最近の作品：「大工がていねいに造った縁台」

# 「300年の歴史を持つ尾鷲林業をまもるために」 ～理事長就任からの3年間を振り返って～

尾鷲ヒノキ内装材加工協同組合 理事長 楠 英敏

「尾鷲ヒノキ内装材加工協同組合」は、JAS認証など様々な認証を取得し、新しい木材需要に 대응していこうと取り組んでいます。



理事長 楠 英敏さん

## ◆尾鷲林業の今

300有余年の歴史を持つ「尾鷲林業」は、先人達の英智と努力によって営々と築かれ、生産された柱はその強靱さ、優れた光沢などから“尾鷲ヒノキ”というブランドを作ってきました。

しかし、市場のニーズは、在来軸組工法から、プレハブ、2×4工法へ変遷し、「ムク材」離れが進んでいます。

大手住宅メーカー等の新築住宅を見ても、構造材は集成材が主体、和室も減り、造作材も外材、あるいは集成材、内装もクロス張りや「木質」の使用が激減しています。

## ◆尾鷲ヒノキ内装材加工協同組合の設立

歴史ある尾鷲林業も柱材の生産だけは限界にきていると考えられ、フローリング材、壁材などの内装材を生産して“尾鷲ヒノキ”のブランドを守ろうと、平成10年度に「尾鷲ヒノキ内装材加工協同組合」が設立されました。

「尾鷲ヒノキ内装材加工組合」は、この地方に多いアクリクイ材などの欠点材、尾鷲林業の特色である多間伐により発生する間伐材の利用拡大、またプレカットによる端材、加工ミス材の再利用対策など、地域の林業界の経営安定化対策として大いに期待されました。

## ◆新たなニーズへの対応

設立当時、私はまだ30歳でしたが、前理事長の推薦で理事になりました。

当時は、右も左も分からないまま、役物を中心に生産しようとしていたのですが、節物にばかり注文がきて、売り上げは伸びないが手間だけはかかるという状態で、経営は赤字でした。

この状況を改善するため、FSC森林認証材を取り扱うCOC工場の認証、三重県リサイクル認定商品など様々な認証を取得しました。

さらに、平成21年6月にJAS認証を取得し、認定工場として、公共物件、個人住宅に対して性能表示など各制度に対応できるように努力してきました。現在、市場のニーズは安定した品質だけでなく、環境問題、そして健康面からも、本物を求める時代へと確実に移ってきており、取得してきた認証などがやっと注目されるようになり、昨年度は黒字を示すなど経営も安定してきました。

## ◆今後の取組

平成20年に理事長に就任した時は、「木材価格がこんなに低くなった現在、大変な時代に理事長に就任してしまったなあ。」と思いました。

しかし、このような状況の中でも、高性能加工機械を導入し、安全で生産性の高い製品生産を積極的に進め、「尾鷲ヒノキ内装材加工協同組合」が、地域の振興に結びつく雇用創出の場となり、「持続可能な森林経営」「資源を有効に利用する循環型社会」の構築を製品加工販売の側から支えていけるよう、これからも努力していきたいと思っています。



# 紀宝町立井田小学校でクロマツ苗の養成を行っています

紀宝町産業建設課 福嶋育也

七里御浜松林を守る協議会では、例年グリーン・グロー作戦（G・G作戦）と称して、熊野市から紀宝町にかけての七里御浜海岸にマツノザイセンチュウ抵抗性マツの植栽を行っています。しかしながら、使用するマツは特殊なマツ苗であるため高価で、また需要の増加により入手も困難になってきています。

そこで、三重県の協力を得て小学生によるマツ苗の育成に取り組んでいます。

マツの種子は昨年の秋に採取し、冷蔵庫に保存していたものを用いました。



マツに関する説明

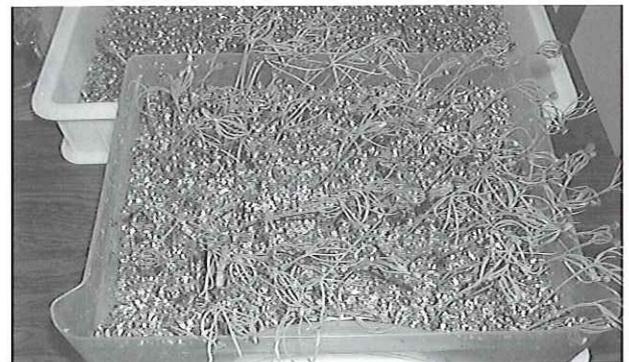
播種後は直射日光が当たらないよう寒冷紗で覆い散水管理しました。また、プラスチック製の容器にも播種し教室内で発芽状況を観察しました。

温度の関係もあり教室で管理した方が発芽が早く、約一ヶ月ですっかり大きく育ちました。



播種方法の説明

播種は5月10日に紀宝町立井田小学校の4年生22名が行いました。当日は、林業普及指導員より森林の働きとマツクイムシに関する講義を受けた後、外に出て班別にマツの播種を行いました。



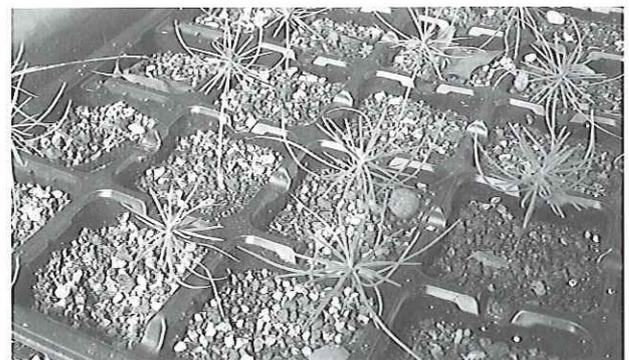
教室で育てたマツ苗

そこで、改めて大きいセルポットに植え替え、現在順調に成長しています。将来、この子供たちが卒業記念に無事マツ苗を植栽できるように育つことを期待します。



丁寧に種子を蒔く子供たち

播種方法はセル苗用のポットにパーミキュライトを入れ、セル一つにつき3粒ずつの種子を蒔き散水しました。早く作業を終わってしまう班や、ゆっくり丁寧に作業を行う班など様々でしたが、関係者の協力の下、無事播種作業を終えました。



育成中のマツ苗

## 山嵯さんがJA全農乾椎茸品評会で大臣賞を受賞！

松阪市駐在 林業普及指導員 北川 雅 義

平成23年6月10日、埼玉県久喜市のJA全農椎茸事業所において第44回全農乾椎茸品評会（全国農業協同組合連合会主催）が開催され、多気町の山嵯保さんと佳代さんご夫妻が「上どんこの部」で、最高賞となる農林水産大臣賞を受賞されました。

山嵯さんの大臣賞受賞は2年ぶり2度目です。



山嵯さんご夫妻

この品評会は、全国の原木乾椎茸生産者が1年の成果となる優秀な乾椎茸を出品し、品質を競い合うものです。

今年は全国22県から合計410品が出品され、全6部門で審査が行われました。

山嵯さんによると、今年の椎茸は出来が良く、収穫する時から既に手応えを感じていたそうです。

また、かさの直径を4.5～5cmに揃えるため、最適な収穫時期を逃さないように細心の注意を払い、出品時には更にミリ単位にこだわるなど、常に良質品生産を意識した作業をしているとのこと。

「原木山を売ってもらう人たちにも本当に良くしてもらっているの、そのためにも良い品質の椎茸をより多く収穫することを目指している。原木椎茸栽培は気温や降雨など自然に左右される部分もあるが、来年も連続して大臣賞をねらっていきたい」と笑顔で語られました。

## 「国際森林年」記念行事を県内各地域で開催します

2011年（平成23年）は、国連が定めた国際森林年（the International Year of Forests）です。県民の皆さんが森林づくりへ関わる契機となるよう、県内各地域で下記のとおり「国際森林年」記念行事を開催します。

開催日時	イベント名	内 容	開催地	連絡先
9月24日(土) 10:00～15:30	もっと知ろう！ 三重の森林	神宮林を歩く 基調講演、パネルディスカッション	伊勢市（神宮林、いせ市民活動センター）	環境森林部森林・林業経営室 TEL 059-224-2991
10月1日(土) 10:00～14:30	「国際森林年」記念ウォーキング	森林セラピー基地「高東山コース」ウォーキング	津市美杉町（君ヶ野ダム周辺）	津 森林・林業室 TEL 059-223-5092
10月15日(土) 10:00～16:00	「三重の森林と木づかいフェア」	森林・林業とのふれあい、古道ウォーク	尾鷲市（熊野古道センター）	環境森林部森林・林業経営室 TEL 059-224-2991
10月29日(土) 10:00～14:00	木をみる森をしる～ブナの森をあるく～	ブナ林を歩きながら森林に触れ合う	伊賀市勝地（奥山愛宕神社周辺）	伊賀 森林・林業室 TEL 0595-24-8142
11月5日(土) 9:00～16:00	～森を歩こう～	吉田本家山林、神宮林の散策	大紀町、伊勢市	伊勢 森林・林業室 TEL 0596-27-5265
11月6日(日) 13:00～16:00	カブトムシの来る森をつくろう！	広葉樹（クヌギ・コナラ）を植樹	四日市市西山町地内	四日市森林・林業室 TEL 059-352-0655
11月13日(日) 10:00～14:00	～森を歩く～「創造の森」へ森林ウォーク	森林ウォーキング	松阪市伊勢寺町	松阪 森林・林業室 TEL 0598-50-0568
11月20日(日) 9:00～12:00	七里御浜のマツ林を歩こう	クロマツの植栽とマツ林ウォーキング	熊野市～紀宝町	熊野 森林・林業室 TEL 0597-89-6135

# 林業研究所研究員が第45回森林防疫奨励賞の 林野庁長官賞を受賞

林業研究所

平成23年7月27日(水)、全国森林病虫獣害防除協会通常総会が、東京都千代田区のコープビルで開催されました。この場において、林業研究所の島田主任研究員に対し、第45回森林防疫奨励賞の最高位である林野庁長官賞が授与されました(写真-1)。



写真-1. 表彰を受ける島田研究員

全国森林病虫獣害防除協会が発行する「森林防疫」誌第59巻(平成22年)に掲載された論文を対象に選考委員会による審査が行われ、林野庁長官賞1編、全国森林病虫獣害防除協会会長賞1編、奨励賞2編の計4編が選ばれました。この中で、島田研究員の論文が最優秀と評価され、全国森林病虫獣害防除協会通常総会において、林野庁長官賞を授与され、受賞講演を行いました(写真-2)。

また、同総会において、森林病虫害等防除活動に積極的に取り組み、森林資源の保全に貢献した団体、個人を表彰する第17回森林病虫害等防除活動優良事例コンクールの表彰も行われ、地区住民が海岸マツ林の保全活動に取り組む、石川県根上森林連合会など2団体、1個人が表彰されました。

受賞論文は、同誌No.681(平成22年11月号)に掲載された「単木獣害防護資材を設置したヒノキ幼齢造林地におけるシカ採食の下刈り効果」です。

この論文は、シカが高密度で生育する地域の新植地では、植栽木に対するシカの食害を単木的に防げば、シカによる雑草木の採食がもたらす下刈り効果により、通常の下刈りを行った場合と同様の成長量が得られるのではないかと、この考えを検証したものです。

選評では、独創的な着想とそれを検証する綿密な試験設定だけでなく、防除コストなど現実的な面への配慮が高く評価されています。同研究員の今後のさらなる活躍が期待されるところです。

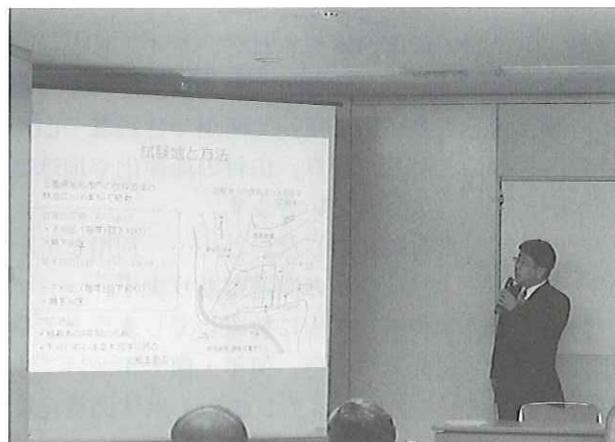


写真-2. 講演する島田研究員

## 【受賞論文の概要】

シカ生息密度が10頭/km<sup>2</sup>程度の地域で、単木獣害防護資材を設置したヒノキ幼齢造林地においてシカ採食の下刈り効果を検証しました。

ヒノキ植栽木に対してシカ採食の防除方法(防護柵、単木防護資材)、下刈りの有無の条件を変えて試験を行い、植栽木の樹高、直径などの成長量や雑草木現存量の差異を比較しました。

その結果、単木防護の下刈り区と無下刈り区の樹高と地際直径の成長量に差異はみられず、ともに防護柵内の下刈り区と同程度の成長、無下刈り区よりも良好な成長を示していました。これは防護柵外にある単木防護の試験区では、下刈りの有無に関わらず植栽木周囲の雑草木現存量がシカ採食を受けて減少し、植生高も低く抑えられることにより、雑草木との競争関係が緩和されたことによるものでした。

このことから、シカが高密度で生息する地域では、単木防護資材によるシカ採食防除と下刈り省略を組み合わせることで、下刈りを行った場合と同等の植栽木の成長を得ながら、下刈りコストを低減できる可能性があると考えられました。

## 間伐材利用の可能性を広げる

～O&Dウッド「Out Door Wood」高耐久化処理木材～

三重県森林組合連合会 三重の木利用拡大センター

三重県森林組合連合会ではこの度、これからの三重県における間伐材利用推進を考え、O&Dウッドの取り組みを開始しました。

今、間伐材の活用が進められています。しかし、間伐材の半分は利用されることなく放置されています。間伐材をさまざまな用途で活用できれば、山に放置されることが無くなり、山村の活性化や地球温暖化防止にもつながっていきます。

この間伐材を有効利用しないと…… 利用していただくうえで…… いくつかの問題があります。

間伐材を有効利用せず山に放置してしまうと、数年後には朽ち果ててしまい、何年・何十年かけて木材が吸収したCO<sub>2</sub>を放出してしまい、地球温暖化につながってしまうのです。

また、せっかく利用しても間伐材をそのまま屋外で使用すると、やはり数年で腐ったり、シロアリの被害にあうことでボロボロになります。鉄やコンクリートより耐久性で劣ってしまうことで使用用途が制限され、利用の拡大につながらないという問題があります。



志摩市

O&Dウッドは優れた信頼性から全国の公共事業で使われています。資源の有効利用として、三重県内でも数多く使用される様にもなっております。

### ◆O&Dウッドの処理システムで 間伐材が利用可能に！

「間伐材をさまざまな用途で利用できるようにしたい！」その思いを可能にしたのが高耐久化処理木材によるO&Dウッドなのです。

O&Dウッドは、木材に特殊な保存処理を施すことで高耐久化されます。そのため木材中に吸収され

たCO<sub>2</sub>を腐れなどによって放出させることなく、長期にわたり固定します。

この優れた効果は過酷な条件下でも推定30年以上にわたり発揮します。

そのため従来、木材が適していなかった土木的な利用分野への使用が可能で、コンクリートと同じような資材として活用できるのです。

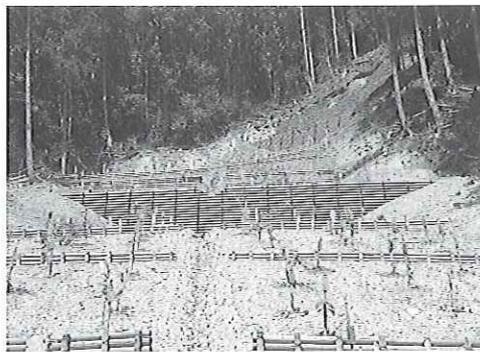
また、校倉式を応用した井桁構造が理論的で堅固でかつ安定性に優れた構造体を生み出しました。各種公的機関で耐久性試験などを行い、その効果の実証が高い信頼性を得ています。



亀山市

### ◆間伐材の使用用途が広がることは、 環境的な貢献につながることであります

O&Dウッドは加工時のエネルギー量が鉄やコンクリートよりも少ない上に、耐久性が高いことから、木材内部に二酸化炭素を長く固定します。その効果から、同じ大きさの構造物を作った場合、コンクリートに比べ製造時のCO<sub>2</sub>排出量は1/10以下に削減できるのです。この削減量は、普通自動車の出すCO<sub>2</sub>排出量の約2年分に相当します。



菟野町

民有林治山木材使用工事コンクール  
日本治山治水協会会長賞受賞

## 頑張ってます！ ～僕ら四世代～

株式会社フォレスト伊賀 東 幸典

今回は、伊賀市の(株)フォレスト伊賀で現場作業に従事している、東<sup>あずま</sup>さんをご紹介します。



東 幸典さん

### ◆曾祖父の時代から

私の家では曾祖父の時代から私で四世代続いて林業の仕事を営んでいます。

小さい頃から祖父や父の背中をみて育ってきたので林業の厳しさ、楽しさなどは一般の家庭よりは分かっているつもりだったのですが、いざ、この仕事をしてみると思っていた以上に厳しく、奥が深いことに悩まされています。

専門学校を卒業後一時保育士の仕事をしていましたが、祖父の体調が悪くなり祖父の代わりに父のパートナーとして林業の仕事に転職しました。



### ◆株式会社フォレスト伊賀に入社して

平成16年4月にフォレスト伊賀に入社し今に至っています。現専務である父も遅れて、翌年の1月に入社しました。

当初は素材生産者の方の仕事を主にしていましたが、ここ2、3年の間に素材生産者の高齢化又は木

材価格の低迷により伊賀の素材生産者も数えるくらいに減少しました。それと同時に伊賀の林業の従事者も高齢化に伴い、ここ数年で大幅に減少しました。当社もその影響を受け自社で立木の仕入れをするようになりました。

現在、当社では5人の作業員で活動しています。仕事の内容としては間伐・搬出が主で、今年は県・市の補助事業にも積極的に参加させていただきました。

会社としても高性能林業機械を取り入れることとし、グラップル付きトラック等を導入しました。これで運搬もできる体制もできました。

また、近年では、神社・寺の立木を切る仕事も増えてきました。

作業員の平均年齢は35歳で、どの作業員もこの仕事について7年弱になりました。各担当を決め専務を中心に動いています。社員同士も仲がよく、この頃はようやく少しずつ任せてもらえるようになってきました。



### ◆今後の株式会社フォレスト伊賀

これからは今の仕事を継続しつつ、その他にも山林の管理等にも力を入れていきたいと思っています。

県の方も今年からフォレストワーカー・フォレストリーダー・フォレストマネージャーなどの取組を行ない、資格も重視していくようです。

山の仕事と言ってもそれぞれ形も違うし、立っている木も違う、それによって倒し方も違って来るし本当に山は考え深いものがあります。

これからも事故に気をつけ伊賀の山林を守るため頑張っていきたいと思います。

この人に聞く ～第35回・安田 勇（やすだ いさむ）さん～

聞き手：四日市市駐在 林業普及指導員 北原善彦

今回登場していただくのは、亀山市加太市場の安田木材(有)会長の安田勇さんです。

安田勇さんは、素材生産業を営む安田木材(有)の会長として、地域林業の発展に貢献されています。

それでは、よろしくお願いします。



安田 勇さん

**Q** 安田木材(有)の概要について教えてください。

**A** 安田木材(有)の原点は、父親が創業した「安田屋」です。その後を私が引き継いで「安田木材店」として規模拡大し、平成13年1月に有限会社として法人化すると同時に息子（年宏氏）に代を譲って現在に至っています。現在は「集約化・団地化」に取り組み、定性間伐による素材生産に取り組んでいます。平成21年にはプロセッサを、平成22年にはフォワーダを導入し高性能林業機械による低コスト作業システムを取り入れました。昨年度の素材生産量は4,200m<sup>3</sup>でした。

**Q** 林業を始めたきっかけや、これまでの林業人生の中での思い出深い出来事は何ですか？

**A** 林業を始めたのは20歳の頃です。それまでの3年間、地元の製材業で修行を積みました。そこで学んだ「木取り」の知識がその後の仕事に大きく役立っています。3年間の修行の後に父親が興した林業会社に入ったのですが、会社では親子の関係は一切なく、一従業員として現場作業からたたき上げられました。伐出作業から保育作業まで林業現場に必要な作業は全てこなせるようになったのはそのおかげです。

当時から自分は何事も新しいことにチャレンジする性分でした。昭和28年に自動車運転免許を取ったのですが、当時は加太地区で免許を持っているのは自分を含めて2人だけ。原木を搬出するのも牛馬を使っていた時代に自動車は高価なものでした。当時は「道を傷める」という理由で林道でのトラック走行は認められていませんでした。だから、皆、牛馬で搬出作業をしていたのです。そこに風穴を空けたのは私でした。地域の方々をお願いしてトラックを林道に入れたのです。これで運材作業の効率が飛躍的に向上しました。それ以降、加太ではトラックによる運材が一気に広まったのです。

昭和54年は自分にとってのターニングポイントです。地元の大規模山林所有者が山林を売りに出すこととなり、入札への参加指名を受けたのですが、この時は林業人生の中で最も大きな勝負に挑んだ時でした。足繁く現場に通って出石（でごく）を読み、市場や製材所に通って値踏みをして応札価格を検討しました。寝食を忘れて没頭したのは、今となっては良い思い出です。結果として落札に成功し、この立木買いで安田木材店を大きく育てることができました。

**Q** 現在は会長職として、会社経営の第一線からは一歩引いた立場ですが、会社へはどのように関わっていますか？

**A** 55年以上のキャリアを積んできました。その中で培った、地域の森林所有者とのつながりが今でも残っています。これを活かして、団地化を進めています。やはり、森林所有者から山のことを任せってもらうには、人と人との信頼関係が重要です。人脈とこれまでの経験を活かして営業活動に徹しています。

また、後継者の育成も重要です。新入社員の教育も私の役目です。チェーンソーのメンテナンスや伐採方法などを中心に教育します。これも現場たたき上げの私だからできることなのです。

今は若手の育成と、仕事のベースとなる団地形成が私の仕事です。

**Q** 平成20年から団地化に取り組まれています、これまでの取り組みについて教えてください。

**A** これまでの3年間で6団地、約130haを団地化しました。合意を取り付けた所有者の数

は約110人です。面会したものの同意まで至らなかった人を含めると150人以上の所有者と交渉してきました。1人の所有者と2～3回は面会しますので、200～300回は交渉に臨んだことになります。先方の都合に合わせる必要がありますから、日曜でも夜でも出向きます。お盆も正月も関係ありません。中には、県外在住の方もみえます。しかし、何度も足を運んでコミュニケーションを深めて信頼関係を作れば多くの人は理解してくれるものです。交渉においては、決してあきらめない気持ちを持って粘り強く対応することを心がけています。

**Q** 森林所有者の山林経営に対する意欲についてどのように感じられますか？

**A** 先祖から預かった山林を守らなければならぬという意識は皆さんが強く持たれています。しかし、残念ながら、昔に一度行ったきりで現状を知らないという方が多いのも事実です。そのような方には、まずは現状を知らせてあげて、その山林を将来に向けて価値あるものにするにはどのように手入れするのがよいのか提案する必要があります。これこそ、我々プロの役目です。森林所有者に少なからず自分の山の現状を憂う気持ちがあることは、我々事業者にとってはチャンスです。営業の余地があるのです。

山に詳しくない所有者がどんどん増える中で、最適な提案をして将来価値ある山林に導くことこそ、我々林業に関わる業界人に与えられた責務ではないでしょうか。



180年生のスギの周囲を測る安田勇氏（平成2年ごろ）このスギは周囲長が1丈1尺（約3.3m）あったそうです。

**Q** 現在の国の施策では、森林・林業の再生を掲げ、その中心的役割として団地化・集約化施策を位置づけています。このような方向性についてのお考えを聞かせてください。

**A** 団地化・集約化の考え方には賛成です。皆伐と架線集材を基本とした旧来型の林業だけでは限界があると感じています。現代の林業は機械が中心の林業です。これは労働者の安全確保や労働強度の軽減を考えても当然の流れです。そして、これを維持していくためには一定規模の事業地が必要です。団地の形成は大変ですが、一度団地ができれば、そこから色んな可能性が広がると考えています。今は、その基盤を作る時期だと思います。

**Q** これまでの経験を踏まえて、今後10年間の林業はどのようになると思われますか？

**A** 建築様式が変わり、昔のように役物や磨き丸太が重用されなくなってきました。これは時代の流れとして受け止めなければなりません。10年先に何が起こるか、常に先のことを考えて今の行動をする必要があります。近年、大手の製材やハウスメーカーが国産材に目を向けつつあります。そのような動きに山側が応える必要があると感じています。製材やハウスメーカーから山側に注文が入り、それに応えるだけの原木を迅速に供給できる体制づくりが必要だと思います。その基礎が団地ですね。

**Q** 最後に行政への要望はありますか？

**A** 林道の整備や維持管理に注力してもらいたい。基幹林道は整備されてもその枝線の整備が不十分なので奥山に入れません。さらに、古い規格の林道は幅員が狭く、機械が奥に入らないので、拡幅をお願いしたいと思います。

また、団地化を進める中で、森林所有者の特定に大変苦勞しています。個人情報保護の問題もありますが、行政の側で手入れして山が良くなるという趣旨を所有者に伝えて施業を斡旋するようなことをしていただければ助かります。

（ありがとうございました）

今年で満76歳になられた安田勇氏ですが、地域の山林を良くするために信念をもって林業に取り組まれています。今なお新しいことに挑戦し、色んなことを学ぼうという姿勢に深い感銘を受けました。

取材の最後には「国や県、市が我々を一生懸命になって応援してくれている。その思いに応えるのが我々業界人の義務だ」と心強いお言葉をいただきました。

これからも、安田さんのますますの活躍を期待いたします。

# 三重県におけるカシナガ被害の実態とその対策方法について

林業研究所 福本浩士

## 1. はじめに

近年、全国的にナラ・カシ・シイ類の集団枯死（以下、ナラ枯れ）が広がっています。このナラ枯れは、カシノナガキクイムシ（写真-1）（以下、カシナガ）という甲虫が、ラファエレア・クエルキポーラ（以下、ナラ菌）という病原菌を媒介することで引き起こされます。

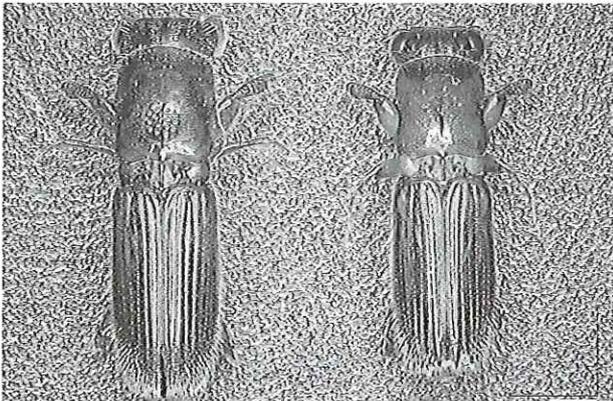


写真-1 カシノナガキクイムシの成虫（左：メス、右：オス）

ナラ枯れは古くから発生しており、カシ・シイ類では1934年に宮崎県及び鹿児島県で、ナラ類では1952年に兵庫県で発生の記録があります。1980年以降、徐々に被害発生地域が拡大し、1999年には16府県、2009年には27府県において被害が確認されています。

ナラ菌の媒介者であるカシナガは、形態的・遺伝的に大きく二つのグループ（おもに日本海側に分布するAグループと太平洋側に分布するBグループ）に分けられ、全国的にみるとAグループによる被害が拡大しています。

## 2. ナラ枯れの発生メカニズムについて

ナラ枯れについては、これまでも多くの研究者がその発生メカニズムの解明に取り組んできました。現在では、以下のような過程で枯死に至ると考えられています。

- ①ナラ菌はカシナガによって枯死木から持ち出され、健全な樹木の組織の中に持ち込まれる。
- ②媒介されたナラ菌は、坑道内で繁殖して樹幹内部に拡大していく。

③ナラ菌が侵入した細胞は死ぬが、その周囲の生きている細胞は防御反応を起こし、道管内に二次代謝物質を蓄積させる。

④道管が目詰まりを起こすと通導機能が阻害され、やがて萎凋が進み枯死する。

ナラ枯れは、多くのブナ科植物（ブナ属を除く）で確認されていますが、枯死に至る割合は樹種により異なります（すなわち、穿孔を受けても枯れない個体も存在します。ここでは、穿孔被害と枯死木の発生をカシナガ被害とします）。ミズナラやコナラは枯れやすく、カシ・シイ類は枯れにくいと言われてきましたが、最近では同じ樹種でも枯れやすさは地域によって異なると考えられています。

また、樹種間での枯れやすさの違いは、道管分布の特徴（環孔材・放射孔材・散孔材）、葉の特性（常緑性・落葉性）等と深く関わっていると考えられています。

## 3. 三重県におけるカシナガ被害の実態について

三重県では、1999年に県南部の熊野市、御浜町、紀和町において、コナラとコジイの枯死が初めて確認され、その後、穿孔及び枯死木の発生が徐々に拡大しています（図-1）。2009年には大台町大杉においてコナラへの穿孔が確認され、翌年にはコナラの枯死木も発生しました（写真-2）。



写真-2  
大台町で発生したコナラの枯死被害

一方、県の北部地域でもナラ類の枯死が確認され、年々穿孔及び枯死の地域が南下しています。2009年には伊賀市坂之下においてコナラの枯死木が確認されています。

県内では北部・伊賀地域に分布するAグループと中部・南部地域に分布するBグループの両方が存在しています。

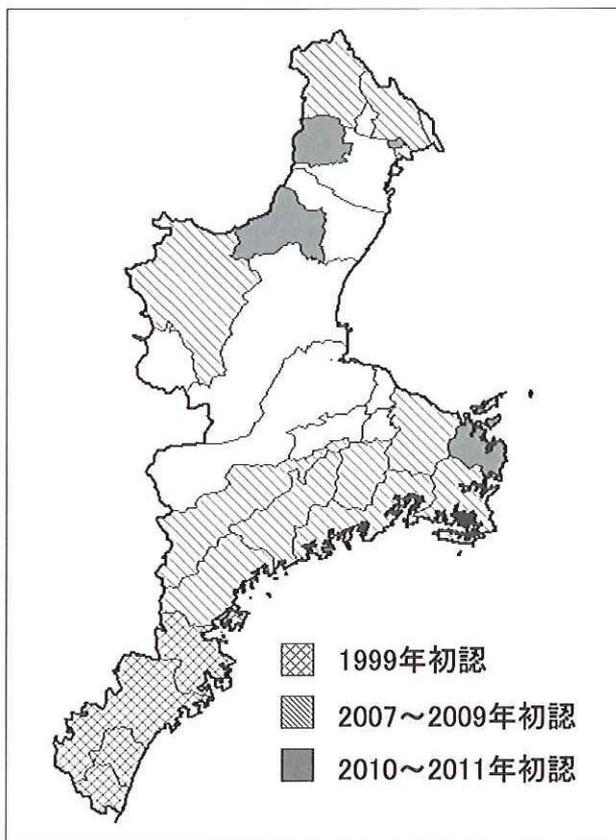


図-1 三重県におけるカシナガ被害発生地域の推移

#### 4. 被害木の駆除と予防について

カシナガ被害の対策は、駆除と予防の二つに分けることができます。

被害木の駆除は、おもに枯死木、異常木、幹からフラス（虫糞と木屑が混ざったもの）が大量に出ている生存木を対象とし、以下に記す方法があります。

- ①枯死立木等へのNCS樹幹注入処理によるカシナガの駆除
- ②伐倒丸太等を集積してビニルシートで被覆した後にNCSくん蒸処理によるカシナガの駆除
- ③伐倒丸太の粉碎・焼却処理及び製炭処理によるカシナガの駆除
- ④枯死立木等への粘着剤の樹幹散布によるカシナガの駆除
- ⑤立木及び伐倒丸太への菌類の接種によるカシナガの駆除

健全木をカシナガの穿入およびナラ菌の感染から守り、枯死被害を最小限に留める方法として以下の手法が開発されています。

- ①健全な立木の樹幹にビニルシートを巻き付け、カシナガの穿入を防止する方法
- ②健全な立木の樹幹へ殺菌剤を注入し、樹幹内でのナラ菌の生長を抑制する方法
- ③健全な立木の樹幹表面に粘着剤等を散布し、カシナガの穿入を防止する方法
- ④被害にあう前にナラ類を伐採して利用する方法
- ⑤化学合成されたカシナガの集合フェロモンを利用した大量捕獲方法（おとり木法・おとり丸太法）

いずれの方法にも、それぞれ長所と短所があります。被害地域の実態に応じて様々な方法を組み合わせることで被害を最小限に抑えることが大切です。

#### 5. おわりに

現在、林業研究所では、各地域の農林（水産）商工環境事務所森林・林業室と連携しながら、カシナガ被害地域の分布を調査しています。カシナガが穿入した木には丸い穿入口が有り、そこから大量のフラスが排出されて根元に堆積しています（写真-3）。このような被害木を見かけましたら、林業研究所またはお近くの農林（水産）商工環境事務所森林・林業室までご連絡ください。



写真-3 大量のフラスが根元に堆積したコナラ被害木

参考文献 —————  
 黒田慶子（2008）ナラ枯れと里山の健康。（社）全国林業改良普及協会，東京。

# 三重県林業技術普及協会第59回通常総会を終えて

三重県林業技術普及協会 向田 恵子

平成23年8月3日、津市の三重県男女共同参画センターにおいて代議員39名の出席のもと、第59回通常総会を開催しました。

総会では、西場会長のあいさつにつづき、来賓として三重県環境森林部辰己部長よりご祝辞をいただき、議事に入りました。

今回の通常総会提出議案は、平成22年度事業報告並びに収支決算について、平成23年度事業計画並びに収支予算について、平成23年度会費の賦課徴収について、代議員の定数について、役員の選任についての5議案でした。提出した議案はすべて原案通り可決承認されましたことをご報告します。

また、総会終了後、一般社団法人全国林業改良普及協会『現代林業』編集部 岩渕光則主幹より「今こそ地域経営力を高めよう」と題し、ご講演をいただきました。

## ◆平成22年度事業報告

●図書発行配布等による情報提供

●調査研究の実施

- ・滋賀県東近江市「地域主体の森林づくり、湖東地域材循環システム協議会の取り組み」
- ・京都府「野生鳥獣被害対策、野生鳥獣広域捕獲協議会」
- ・和歌山県田辺市「全国林業後継者大会、全国植樹祭」

●講演会の開催

演題：森林・林業再生プランの中間とりまとめについて

講師：林野庁研究・保全課松本森林保全推進室長

●森林講座の開催

テーマ：森林資源の商品化への取り組みについて

- ・「三重県森林CO<sub>2</sub>吸収量評価・認証制度」について（三重県環境森林部武南副室長）

- ・大台町の町有林を活用したカーボンオフセットの取り組みについて（大台町産業室谷室長）

●森林座談会の開催

テーマ：これからの三重の森林組合について

●林政活動

- ・知事との森林トークへの出席
- ・全国林業普及研修大会への出席

●林業経営新規参入者支援事業（委託事業）

林業相談会の開催、林業相談窓口の設置及びアドバイザーの派遣

## ◆平成22年度収支決算書

科目	予算額	決算額
I 収入の部		
1 会費	3,949,000	3,968,000
2 雑収入	641,473	622,052
3 前期繰越額	1,109,527	1,109,527
収入合計	5,700,000	5,699,579
II 支出の部		
1 事務費	600,000	355,771
2 会議費	130,000	119,166
3 事業費	3,850,000	2,939,237
4 負担金等	1,090,000	1,019,675
5 雑費	0	23,000
6 予備費	30,000	0
支出合計	5,700,000	4,456,849
収支差額（次期繰越金）	0	1,242,730

## ◆平成23年度事業計画

●印刷物の発行配布等による情報提供

●森林講座の開催

●講演会の開催

●研究・調査等の実施

●森林座談会の開催

●会員加入拡大の展開

●関係団体との連携及び各種大会・会議等への参加

## ◆平成23年度収支予算書

科目	予算額	前年度予算額
I 収入の部		
1 会費	3,934,000	3,949,000
2 雑収入	123,270	641,473
3 前期繰越額	1,242,730	1,109,527
収入合計	5,300,000	5,700,000
II 支出の部		
1 事務費	600,000	600,000
2 会議費	150,000	130,000
3 事業費	3,430,000	3,850,000
4 負担金等	1,090,000	1,090,000
6 予備費	30,000	30,000
支出合計	5,300,000	5,700,000

## ◆役員を選任

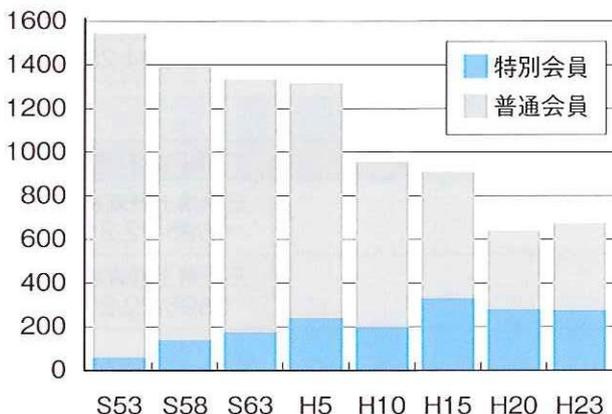
会 長	西場 信行	(三重県議会議員)
副 会 長	青木 民夫	(いせしま森林組合)
	辻本 林義	(伊賀プレカット協同組合)
専務理事	佐々木 太	(三重県林業技術普及協会)
理 事	中川 賢一	(鈴鹿森林組合)
	院南 恒之	(菰野生産森林組合)
	水井 悦雄	(中勢森林組合)
	佐田 一征	(松阪飯南森林組合)
	山添 裕康	(大紀森林組合)
	中岡 久徳	(伊賀森林組合)
	土井 恭平	(森林組合おわせ)
	福中 幹夫	(森林組合おわせ)
	朝尾 高明	(熊野市森林組合)
	芝 嘉宏	(紀南森林組合)
	黄瀬 稔	(三重県木材組合連合会)
	小林 俊也	(三重県環境森林部)
監 事	辻岡 光雄	(中勢森林組合)
	細瀨 淳輔	(宮川森林組合)
	仲 勝義	(いせしま森林組合)

## ◆会員数の推移

当協会の会員数は、平成23年7月1日現在672名(特別会員274名、普通会員398名)となっており、平成20年を底に、減少傾向に歯止めがかかりその後やや増加傾向にあります。

これも、皆様のご協力、ご支援のおかげと感謝申し上げます。

平成23年度も引き続きよろしく申し上げます。



## 書籍のご紹介

**仕事があれば、村は元気!** ー地域雇用づくりの林業戦略ー  
 全国林業改良普及協会編 四六判236頁 定価 1,995円

「林業の村(地域)が幸せになる」。林業に働く人々、その家族、林業地域住民みんなが幸せになること。村が幸せになるための林業とは何か。その手法モデルの実践例を紹介しています。

書籍のお申込みは、三重県林業技術普及協会までお願いします  
 TEL 059-228-0924 FAX 059-228-3220 e-mail mifa@ztv.ne.jp



第59回通常総会

## 講演会要旨

テーマ：今こそ地域経営力を高めよう

講 師：一般社団法人全国林業改良普及協会

『現代林業』編集部 岩瀨光則氏

「山村地域の幸せづくり」には、地域レベルの経営が必要であり、地域に利益、雇用が創出されるよう地域経営力を高めていくことが求められています。

そこで、全国の有名な「きらめく」地域レベルの経営実践事例として、

①北海道下川町

～雇用創出による地域の幸せづくりこそが目的

②岐阜県加子母森林組合

～利害共同体の地域分業型経営を目指す

③高知県梶原町森林組合

～総合木材産業による付加価値を町内で分かち合う

④石川県かが森林組合

～全員参加経営で山主の利益・地域雇用を拡大

⑤長野県根羽村

～村内産商品の市場開拓で雇用を生み出す

の5カ所の取り組みが紹介されました。

地域レベルの経営に必要なのは、まず経営ということを知り、経営者を明らかにし、地域での雇用創出を大前提として、地域資源の市場価値を高め、そしてそれを動かすための人材を地域内で育てていくことが必要となってきます。



記念講演会 講師 岩瀨光則氏

県内木材市場市況の概況(8月)

円/m<sup>3</sup>

区分	規 格			鈴 鹿	松 阪	伊 賀	尾 鷲	熊 野	
素 材	ス ギ	14~18cm	3m	並	8,000~10,000	9,000~12,000	10,000~13,000	7,000~10,000	5,000~10,000
		20~22cm	4m	並	10,000~11,000	12,000~14,000	11,000~13,000	8,000~12,000	5,000~12,000
		24~28cm	4m	並	10,000~12,000	13,000~15,000	11,000~14,000	8,000~13,000	8,000~15,000
	ヒ ノ キ	14~18cm	3m	並	13,000~18,000	10,000~20,000	12,000~18,000	8,000~18,000	5,000~15,000
		20~22cm	4m	並	15,000~18,000	18,000~23,000	17,000~20,000	15,000~20,000	10,000~20,000
		24cm上	4m	並	17,000~18,000	18,000~28,000	17,000~20,000	25,000~30,000	13,000~20,000
製 品	ス ギ	12×12cm	3m	特1	52,000~55,000	45,000~55,000	45,000~55,000		
		4.5×12cm	4m	特1上小		60,000~65,000	55,000~70,000		
	ヒ ノ キ	12×12cm	3m	特1	60,000~65,000	65,000~75,000	65,000~75,000		
		12×12cm	6m	特1	105,000~115,000	100,000~120,000	100,000~120,000		
		4.5×12cm	4m	特1上小	150,000~200,000	100,000~150,000	110,000~150,000		

(注) 積込料、取扱手数料、消費税は含まれていません。

森林・林業関係行事予定表(「国際森林年」記念行事の案内は8頁をご覧ください。)

平成23年10月			
期 日	行事の場所等	行 事 の 内 容	問い合わせ先
10月8日(土)	三重県民の森	やさしいオリエンテーリング教室	三重県民の森 059-394-2350
10月16日(日)	三重県上野森林公園	森の音楽会	三重県上野森林公園 0595-22-2150
10月23日(日)	三重県上野森林公園	こども森林くらぶ4 ひつつき虫の額作り	三重県上野森林公園 0595-22-2150
10月29日(土)	三重県民の森	伐木体験 シイタケのほだ木づくり	三重県民の森 059-394-2350
平成23年11月			
期 日	行事の場所等	行 事 の 内 容	問い合わせ先
11月6日(日)	三重県上野森林公園	薬草観察会~秋編~	三重県上野森林公園 0595-22-2150
11月27日(日)	三重県上野森林公園	ミニツリー作り	三重県上野森林公園 0595-22-2150

財団法人 三重県農林水産支援センター

“農業をやりたい”  
“林業に従事したい”  
“漁業をやりたい”

〒515-2316 三重県松阪市嬉野川北町530  
財団法人三重県農林水産支援センター  
担い手支援課

電話 0598-48-1226  
FAX 0598-42-8221

そんなあなたをサポートします。

<http://www.aff-shien-mie.or.jp>

# 林業用苗木の生産・販売

— 緑資源は優良苗木で —

## 三重県林業種苗協同組合連合会

会長 辻 政 伸  
津市桜橋1丁目104 林業会館内  
TEL 059-228-7387



地元で育まれた品質の確かな  
「三重の木」 認証材で家を建てよう!

「三重の木」 利用推進協議会  
TEL.059-228-4715 <http://www.mienoki.net/>

## 三重県木材組合連合会 三重県木材協同組合連合会

会長・理事長 黄 瀬 稔  
津市桜橋1丁目104 林業会館内  
TEL 059-228-4715

## 守ろう地球の環境 — 緑と水を育む水源林づくり —

私たちは森林農地整備センターによる  
水源林造成事業を進めています。

## 三重県水源林造林推進協議会

〒514-0003 津市桜橋1丁目104 (林業会館内)  
TEL 059-246-9111 FAX 059-246-9111



### ～豊かな森林づくりをめざして～

森林はさまざまな機能を持っています。

- 雨水をすみやかに地中に浸透させて洪水や渇水を緩和します。
- おいしい水を私たちに与えてくれます。
- 土砂崩れなどの山地災害を防いでいます。
- 保健休養の場や教育、野生生物の生息の場として大切な空間となっています。
- 二酸化炭素の吸収・貯蔵の面で地球温暖化防止に貢献しています。

森林を大切に守り、  
育てましょう! 社団法人 三重県森林協会

あなたとつくる緑の未来、さわやかな緑の環境づくりをめざす

地球温暖化防止  
緑の募金で

# CO<sub>2</sub> ダイエット!



社団  
法人

## 三重県緑化推進協会

〒514-0003 津市桜橋1丁目104番地  
TEL (059) 224-9100  
FAX (059) 224-9118

緑の募金 — 三重緑化基金

突然に起こる災害!

だいじな山のうしろだて 緑の山に愛の手を



入って安心



## 森林国営保険

お申込みは...



森林組合・三重県森林組合連合会

あなたの森林守ります!!

# 森林国営保険

加入できる森林は？

樹種・林齢・面積などの制限はありませんが、全く手の入っていない天然林や竹林以外の森林なら、加入することができます。

加入期間は？

1年単位でいつからでもご希望の年数を加入できます。

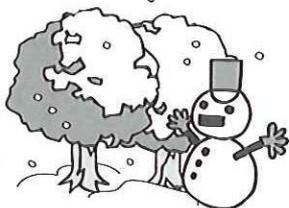
保険金がでるのは？

下記8種類の被害に保険金をお支払いします。

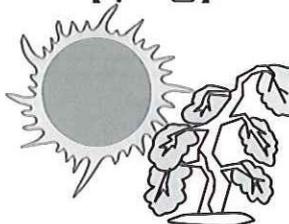
【水害】



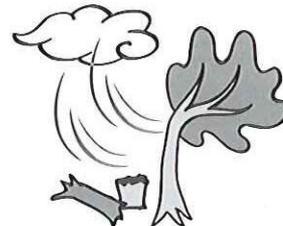
【雪害】



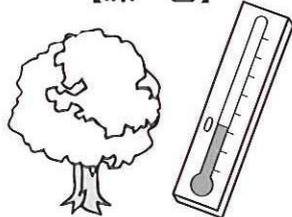
【干害】



【風害】



【凍害】



【潮害】

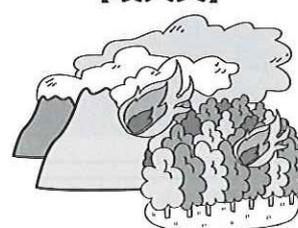


【火災】

(山火事でうけた損害)



【噴火災】



契約手続きは？

三重県森林組合連合会または各森林組合に申し込んでください。一切の手続きをいたします。

1 ha当たりの保険額 (千円) と掛金 (円) 保険期間1年の場合：例

林齢	すぎ		ひのき		その他針葉樹		広葉樹	
	保険額	掛金	保険額	掛金	保険額	掛金	保険額	掛金
1	1,010	3,636	1,010	3,636	800	2,880	580	1,044
5	1,880	6,768	1,880	6,768	1,310	4,716	880	1,584
15	2,730	9,828	2,740	9,684	1,760	6,336	1,170	2,106
30	2,790	8,370	2,990	8,970	1,770	5,310	1,310	1,965
45	2,990	8,970	3,730	11,190	1,780	5,340	1,530	2,295

※1年以上の一括契約の場合は期間に応じ掛金が割引されます。

三重県環境森林部森林・林業経営室・三重県森林組合連合会  
 (☎059-224-2564) (☎059-227-7355)